



よつば会だより

2017 年 7 月号

発行:NPO 法人

尾道こころネットよつば会事務局

尾道市 栗原東 2 丁目 17-86

TEL・FAX 0848-37-6600

7月、当分は梅雨の天候が続きそうです。例年梅雨明けは7月20日前後ですから、20日くらいは続くこととなります。今年の6月は雨の少ない毎日でした。梅雨入りをした6月7日に少々降ったものの、その後晴天が続き、月末になってやっと梅雨らしい空模様になりました。梅雨前線がもたらす雨は、稲や野菜の生長に、また、飲料水の源として欠かせないものです。7月にどの程度の降雨があるか、予測はつきませんが、程々には降ってくれることを期待しています。



「よつば会家族教室」のご報告



5月27日に、よつば会家族教室を行いました。この日の参加者は15名で、母親が4名、父親が6名、当事者が5名で、その内夫婦での参加が2組でした。話し合いの中で、ある母親から「夫が今ひとつ協力的でない、以前よりは怒らなくなったけれど」という話が出ました。そこで参加している父親に、どういう思いからよつば会の活動に参加し、また、家族教室にも参加しようという気持ちになったのかを尋ねてみました。父親からの回答は「家内がよつば会の活動に参加したいと言うが、運転免許を持っていないので、私が送り迎えをしているうちに活動に参加するようになった」、「家内だけに息子を任せおくわけにはいかないと思い、夫婦で参加するようにした」、「息子に多少でも役立つことにならないといけないと思った」、「統合失調症が酷い病気だということを感じて、勉強しなければならなかった」、「娘が発病して、妻がそれこそ一生懸命になって、保健師さんと相談したり、病院の家族会に参加したり、支援施設をさがしたりしている姿を見て、私も一緒になってやらなければと思った」、「妻を早くなくして、自分が娘のことに関わらざるを得なかった」というようなことでした。どの父親もその言葉の裏に、子供を放ってはおけないという思いから、また、少しでも子どもの状態がよくなることを願って、病気のことを知り、社会資源のことを知り、子どもへの接し方を知ろうということで、よつば会活動に参加していることを感じました。しかし、ある母親の話のように、母親がいくら一生懸命になっても、父親が病気の子どもにあまり関わろうとしない家庭が、多く存在することも現実です。母親だけが頑張るのではなく、夫婦二人で力を合わせる方が、頑張る努力もより大きなものになると思えるのですが....



障害者雇用率引き上げへ



5月30日の中国新聞に、「障害者雇用率引き上げへ・2.3%に・統合失調症も対象」という見出しの記事が掲載されました。厚生労働省が50人以上の民間企業に義務づけている障害者の雇用割合(法定雇用率)を現在の2.0%から2.3%に引き上げる方針を固めたというものです。現在は身体障害者と知的障害者が対象ですが、来年4月から統合失調症などの精神障害者も対象になることから対象者数が増えるための措置で、受け入れ態勢を整える企業に配慮して、来年4月に2.2%に引き上げた後、企業の状況を見極めて、2021年3月末までのいずれかの時期に2.3%にすることになっています。入院している精神障害者の退院促進が打ち出されていますが、退院後の受け入れ態勢の一つが、就労による生活の安定です。しかし、精神障害者が就労しても長続きがしないことが、よく言われます。精神障害者の病気の特性からということもありますが、企業の精神障害者への理解の不足もあるように思います。法定雇用率を引き上げるだけでは解決しない課題が多くあります。

6月の活動報告

- 11日 当事者との交流会 (サロンよつば)
- 28日 家族の SST (市民センターむかいしま)

7月の活動予定

- 09日(日) 当事者との交流会 (サロンよつば)
- 26日(水) よつば会家族教室 (市民センターむかいしま)





暗闇に光明を与えられた A 医師との出会い ～本人、家族の思いに添った治療に安堵～



私の娘は今年の5月29日に、福山市の精神科病院から岡山市の精神科病院に転院しました。娘はそれまでに3つの精神科病院で10回の入退院を繰り返してきました。今回の転院前の10回目の入院は、2年間の長期にわたりました。そのころの娘は妄想が激しく、夫婦で面会に行っても、とうとうと現実離れしたことを喋りまくり、私たちが話しかけてもそれに応えることはなく、まるで別世界に行ってしまったようにさえ思われました。病院では他の患者に手を出すなどなどの荒れた状態が繰り返され、その都度、保護室に入れられていました。主治医からは重症の統合失調症と言われていました。

転院のきっかけは、福山市の病院でしばらく主治医になってもらった A 医師が、今年の2月末に「この病院では一向によくならないでしょう。私は4月に岡山市の精神科病院に転勤します。着任したら私のところに来なさい」と言ってくれたことでした。A 医師が娘の主治医になってしばらく経った昨年10月中旬に娘と面会すると、とても穏やかになっていて驚きました。そのあとで A 医師と話すことができ、娘が穏やかになってうれしかったと話すと、即座に「もっとよくなりますよ」という言葉が返ってきました。その言葉は、娘は一生病院暮らしになるのではないかとさえ考えていた私たちにとって、暗闇に明かりがともったような嬉しい言葉でした。そんな A 医師から、私のところへ来なさいと言ってもらって、迷いなく転院させることにしました。4月に入り岡山市の病院の部屋が空くのを待って、転院は5月29日の月曜日になりました。その後、毎月曜日に娘に会いに通っています。福山の病院で面会に行ったときは、帰りは気分が重くなるばかりだったのが、岡山の病院へは車で片道1時間半かかっても出かけるのが楽しくなっています。転院から1ヶ月ですが、面会に行くと娘と普通の会話ができるようになっていきます。福山での2年間にはほとんど出来なかった普通の会話です。また、A 医師は私たちが面会に行くと、面談約束を取っていないのに面会室に来てくれて、いろいろ話してくれます。治療の進め方については、次のように話しています。「治療の進め方には大きく二つある。一つは減薬、時間をかける必要はあるが、これまでの薬がゼロの状態にまで持っていきたい。もう一つは甲状腺機能が低下しているので、これを正常に近い状態にまでしていく。この甲状腺機能の低下が妄想を引き起こしていることがある。娘さんは場合によっては統合失調症でなかったことも考えられる。まずは甲状腺への治療を優先して進め、様子を見ていきたい」

転院した日に A 医師は私たちに娘の成育歴と入院歴を話そう求めました。その中で娘は甲状腺機能亢進の治療をしていたことも話しました。後で話してくれたことですが、A 医師は内科の診療に当たっていたこともあり、そのときに甲状腺の治療も行っていたということです。そこで早速甲状腺機能の状況を検査して、低下していることを見つけてくれたのでしょうか。娘が統合失調症でなかったとは、なかなか考えられないと思っています。しかし、あの妄想のとりこになっている状況の一因が、甲状腺機能低下かもしれないと想っています。また、A 医師のように、抗精神病薬の減薬に真剣に取り組む医師に出会ったことはありません。薬は増やすよりも減らす方がむずかしいと、ある本に書いてありましたが、多くの精神科医が薬に頼った治療を行っていて、減薬のむずかしさから逃げているのではないかと思います。娘はまだ紆余曲折があるかとは思いますが、甲状腺機能回復も一気にはできず、少しずつ薬の量を増やしながらの治療になります。減薬もときには不安定な状況になることもあるようです。それでも、A 医師から娘も私たちも希望を与えられました。すべての精神科医に A 医師のような考え方で治療に当たって欲しいという思いを込めて、このような文章をつりました。(N.T)